※インターネット「**はらまち九条の会**」で、「**九条はらまち**」の全号を見ることができます。
※「**はらまち九条の会**」は会員約390名。超党派で会員を募集中です。年会費千円。

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.113**

2009（平成21）年10月20日（火）発行

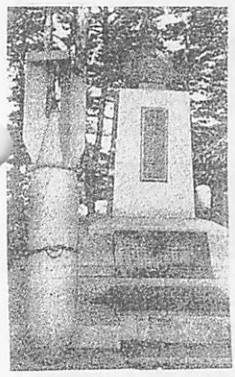
＜1856年10月20日、相馬中村藩の飢饉を救った二宮仕法の二宮尊徳の命日＞

○江戸時代末期の農政家。1787年相模（神奈川県）の農民出身。幼名金治郎。節約、貯蓄を中心とした事業法が「報徳仕法」で、天明・天保の飢饉のあとの小田原藩や私たち相馬中村藩もその「二宮仕法」を採用して藩の財政や村の復興に成功した。「恩人」「御仕法」として称えられ、全国的に、南相馬市でも「報徳サミット」も開かれ、信奉者も多い。

○『およそ小人しょうじんの常、大なる事を欲して、小なる事をおこたり、出来がたき事を憂いて、出来易き事を勤っとめず。それ故ついに大なる事なすこと能あたわず』

65年前の1944(昭和19)年10月25日、フィリピンで戦死

最初の神風特別攻撃隊・原町出身中野磐雄さんのこと



▲中野さんと、夜の森公園の胸像

中野磐雄さんは一九二五（大正十四）年一月一日、現在の南相馬市原町区本町生まれ。九人兄弟の末っ子で、原町小学校（原一小）・相馬中学校（相馬高校）を卒業。当時雲雀ヶ原にあった原町飛行場の兵士が中野さん宅に宿泊していて、その影響で海軍航空隊に入隊。神風特攻隊に志願し、六十五年前の昭和十九年十月二十五日、フィリピンでアメリカ艦隊に突撃して戦死します。毎年十月に、夜の森公園の胸像前では同級生らによる慰霊祭が行われています。

今から65年前、第二次世界大戦（アジア太平洋戦争）の末期、日本は戦況も不利となり、アメリカ艦隊に飛行機ごと体当たりする「神風特別攻撃隊」が編成されます。その初めての部隊が「敷島隊しきしまたい」とよばれる5名で、その一員の中野磐雄さんは、原町区本町出身で、生家は現在の本町郵便局の北隣にありました。

▲出撃の水盃を受けている中野さん（左から二人目）

昭和19年10月25日、中野さんは零戦（ゼロせん・零式艦上戦闘機）に250ｋｇの爆弾を積み、片道分だけの燃料で死を覚悟のうえで出撃。フィリピンのマニラ沖のアメリカ軍艦に突撃し、わずか19歳で戦死しました。その後も終戦までの10カ月間、上官の命令で特別攻撃隊が次々編成され、陸海軍あわせて6，000名ともいわれる若者が出撃し、尊い命を落とします。上官は責任を取ることもなくぬくぬくと生き残り、純真な若者が犠牲になりました。

19歳で戦死した中野さんのご両親の本心は？

壮絶な戦死を遂げた中野さんは全国初の特攻隊ですから、全国各地から数え切れないほどの多くの賞賛の言葉や手紙が届き、「軍神」とか「神鷲」と崇められ、ご両親もおおいに称えられました。

しかし中野さんのお母さんの本当の気持ちは、こんなに若く19歳で死んでしまうなら、末っ子でいつも兄のお譲りの古着だけで、「せめて新しい足袋たびの一足もはかせてやりたかった」と嘆いたということです。（**森鎮雄氏の著書『空征かば』より**）またお父様も、磐雄さんの死を悼み悲しんでいたというエピソードが残されています。

○中野さんについては森鎮雄氏の著書『空征かば』や、二上英朗氏の著書『原町空襲の記録』『遙かなり雲雀ヶ原』に詳しく述べられています。

特攻を命じた上官の責任は？

◆戦況挽回のための特攻をどこで誰が発案したのか、特攻に異議をとなえる指揮官はいなかったのか、どんな意義があったのか。現在確認できる戦死者だけでも海軍4,156名、陸軍1,689名（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ｳｨｷﾍﾟﾃﾞｨｱ百科事典）といわれています。◆特攻を命じた上官たちは一体、敗戦後にどんな態度や責任をとったのでしょう。終生鎮魂と祈りにふくした方、口をつぐんで平然と過ごした上官も多数のようです。ヨーロッパなどとは異なる、すべてを水に流してしまう国民性がここでも表れています。

志賀敏美さんも特攻で戦死

中野さんの戦死からわずか10日後、原町区石神生まれで、相馬農蚕学校（相農）卒の志賀敏美さんも、昭和19年11月6日、フィリピンのルソン島沖のアメリカ軍艦に突撃し戦死します。大正13年7月生まれで、わずか20歳の若者でした。4年前の平成17年には、夜の森公園の中野磐雄さん胸像の隣に「志賀敏美平和祈念の像」も建立されました。

原爆の詩

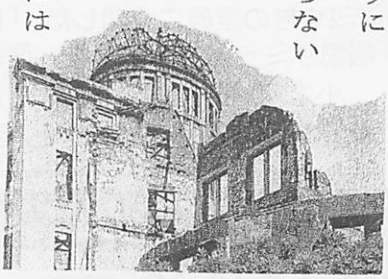
ヒロシマというとき

栗原貞子

〈ヒロシマ〉というとき
〈ヒロシマ〉と
やさしくこたえてくれるだろうか
〈ヒロシマ〉といえば〈パール・ハーバー〉
〈ヒロシマ〉といえば〈南京虐殺〉
〈ヒロシマ〉といえば　女や子供を
壕のなかにとじこめ
ガソリンをかけて焼いたマニラの火刑
〈ヒロシマ〉といえば
血と炎のこだまが　返って来るのだ

〈ヒロシマ〉といえば
〈ああ　ヒロシマ〉とやさしくは
返ってこない
アジアの国々の死者たちの無告の民が
いっせいに犯されたものの怒りを
噴き出すのだ
〈ヒロシマ〉といえば
〈ああ　ヒロシマ〉と
やさしくかえってくるためには
捨てた筈の武器を　ほんとうに
捨てねばならない
異国の基地を撤去せねばならない
その日までヒロシマは
残酷と不信のにがい都市だ
私たちは潜在する放射能に
灼かれるバリアだ

〈ヒロシマ〉といえば
〈ああ　ヒロシマ〉と
やさしくかえって来るためには
わたしたちは
わたしたちの汚れた手を
きよめねばならない



◆栗原貞子　一九一三～二〇〇五年。広島県生れ。広島で暮した。

○オバマ大統領のノーベル平和賞受賞で、オバマのヒロシマ・ナガサキ訪問、2020年オリンピックの両市の開催招致が話題になっています。でも、ヒロシマ・ナガサキへの世界の眼は多様で、１０月１４日 の『朝日新聞・天声人語』で紹介された栗原貞子の詩（**コールサック社『原爆詩一八一人集』**から転載）を読み直してみましょう。私たちがヒロシマ・ナガサキを主張するとき、忘れてはいけないことの多さに気づかされます。

これからの行事

○10月31日(土) 10:30～12:30 「全県九条の会連絡会」　**○会場：郡山市文化センター**
13:30～15:00 **憲法塾・学習講演会「田母神懸賞論文を検証する」**
〈講演会は参加自由です〉　講師　安孫子麟さん（元東北大学教授・宮城憲法会議代表委員）

主催：いわき市九条の会連絡会　問合わせ：0246－28－4139福島ビデオ　丹治杉江さん

○11月3日(文化の日)13:00～　**○会場：いわき市社会福祉センター（旧産業会館）**
川口創はじめ弁護士講演会　**「自衛隊イラク派兵違憲判決を今、どう活かすか」**
〈協力券：500円・高校生以下無料〉　*昨年8月、原町と相馬でも講演会が開催されました！*

○11月7日(土) 16:00～16:45　**DVD鑑賞会「加藤周一　九条を語る」**
○会場：ステーションプラザホテル6階（原ノ町駅東）　（会終了後、懇親会を予定しています）
○主催：相双教職員九条の会　*後援：はらまち九条の会*　*お気軽にご参加ください！*

○11月　8日(日) 13:00～　第32回吉野せい賞記念講演会　**講師：澤地久枝さん**
○会場：いわき市立草野心平記念文学館（いわき市小川町高萩字下夕道1－39）　**「一人からはじまる」**
〈問合わせ・申込先：いわき市教育委員会文化課文化振興課へ　FAX：0246－22－7552〉

主催：福島県立学校退職教職員九条の会　連絡先：024－542－3366（高橋）
○12月3日(木)13:30～16:00　**小森陽一講演会「日本・世界の現況と改憲をめぐる動き」**
○会場：郡山市民文化センター5F　*経済危機は若者の未来をどう変える？これからの日本は東アジアや米国とどんな関係を築くべきか？水面下で改憲勢力は動いている！*
〈協力券：500円：事務局にあります〉

事務局より

◆本会員もあと４名で４００名になります。「人とお金」を集めることは本当に大変です。

◆会報は毎月２０日ごろ約３８０通を送付しています。内訳は原町区内１３０通、区外６０通、手渡し１７０通です。「ご寄稿や連絡」などは毎月１５日ごろまで事務局にお届けいただければ、次号の会報掲載に間に合います。

◆『九条はらまち１～100号収録』は、図書館などに約５０冊を寄贈しました。ご希望の方には製本代＋カンパで１冊８００円で。原町区三島町の大内書店さんでも頒布中です。

「はらまち九条の会」事務局員連絡先（市外局番 TEL0244）
○平田慶肇会長TEL24－1211　○井上由美（会計）TEL22－7511 FAX26－0892
○山崎健一事務局長TEL22－8631（〒975-0014 福島県南相馬市原町区西町3-53-2）
○石田賢二 TEL22－4037　○早坂吉彦TEL22－0326　○番場恵子TEL22－0715